



TITLE:

京大広報 No. 353

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

---

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 353. 京大広報 1988, 353: 485-490

ISSUE DATE:

1988-06-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209326>

RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

# 京大広報

No. 353

京都大学広報委員会



外国人留学生歓迎パーティ 一関連記事本文 486 ページ

## 目 次

外国人留学生歓迎パーティ.....	486	昭和63年度創立記念行事	
		音楽会の開催.....	489
京都大学看護教育90周年		計 報.....	489
記念式典の挙行.....	486	＜随想＞	
＜紹介＞		思い出と近況	
農学部林産工学教室.....	487	名誉教授 藤田 榮一.....	490

## ＜大学の動き＞

## 外国人留学生歓迎パーティ

本年に入学した留学生の歓迎パーティが、5月23日（月）午後6時から京大会館において開催された。

歓迎パーティは、新入学の外国人留学生、関係部局長及び指導教官等約150名が出席して行われた。

清水御代明学生部長事務代理の挨拶に続いて、内野治人医学部長の発声による乾杯でパーティが始まり、終始なごやかな雰囲気の中に進められ、午後8時頃閉会した。

なお、新入学した外国人留学生の概況は、次のとおりである。

国 名 等	学部	大 学 院			計
		修士課程	博士後期課程	研修員 研究生	
オーストリア				1	1
ベルギー				1	1
ブラジル				2	2
ビルマ				1	1
中 国	4	7	10	43	64
デンマーク				2	2
フランス				2	2
西 ド イ ツ		1		10	11

国 名 等	学部	大 学 院			計
		修士課程	博士後期課程	研修員 研究生	
ガ ー ナ				1	1
香 港	2		1		3
イ ン ド				2	2
インドネシア	2	1		3	6
イ タ リ ア				1	1
韓 国	1		1	15	17
マレーシア	4				4
オ ラ ン ダ				1	1
フィリピン		1			1
ポーランド				2	2
シンガポール	1				1
ス ペ イ ン				1	1
スリランカ			1	1	2
タ イ	2			2	4
台 湾	1			11	12
ト ル コ				1	1
イ ギ リ ス				4	4
ア メ リ カ		1		2	3
計	17	11	13	109	150

（注）国名等は通称による。

（学生部）

## ＜部局の動き＞

京都大学看護教育90周年  
記念式典の举行

本学看護教育90周年記念式典が、医療技術短期大学部と医学部附属病院との共催で、5月8日（日）午前10時30分から京都ロイヤルホテルにおいて举行された。式典は西島総長、内野医学部長、本郷京都市衛生局長をはじめ学内外の多数の来賓、並びに看護関係者約200名の出席の下に、式辞、祝辞と進行して、正午、盛況裡に終了した。

本学の看護教育は、明治32年9月京都帝国大学





医科大学附属医院看護婦見習講習所の設置に始まった。その後、時代とともに改組、改称を重ねながら連綿として継承され、戦後の医学部附属医院厚生女学部、医学部附属看護学校を経て、昭和50年4月からは大学教育に組み込まれ、医療技術短期大学看護学科となって今日に至っている。創設以来90年間の卒業生は5千有余名に及び、それ

ぞれが優秀な看護婦あるいは看護界の指導者として、わが国の医療を支えてきた。

学問の府、京都大学の看護教育が100周年に向けて、今後一層科学性と人間性の豊かな看護者の育成に努め、よりよき医療の推進に寄与することを願うものである。

(医療技術短期大学部)

## ＜紹 介＞

### 農学部林産工学教室

林産工学教室は、わが国の高度成長期における木材工業、パルプ・紙工業及び関連の化学工業の発展を学問的に支え、とくに住環境の向上という社会的要請に応えるため、昭和40年4月1日付の官制によって、農学部設置された。設置時には、林学教室に属していた木材工学講座が本教室に移り、翌昭和41年4月に木材構造学講座及び林産機械学講座、また昭和42年4月に天然高分子化学講座及び木材加工材料学講座、最後に木材化学講座が昭和43年4月に開設され、6講座からなる林産工学教室が完成した。その後昭和45年に天然高分子化学講座は林産化学講座と改称された。

教育・研究の内容は木材を主とする林産物を対象とし、分子レベルから肉眼レベルまでの木材の構造、木材成分の分子構造と機能といった基礎的事項にはじまり、住環境・住居構造材料としての

木材の物性、新しい加工法及び加工機械、木材の加工に必要な高分子材料、パルプ・紙などの繊維質材料の製造原理及び物性、工業原料・エネルギー資源としての木材の化学、木質新素材の開発といった広範な分野を含んでいる。

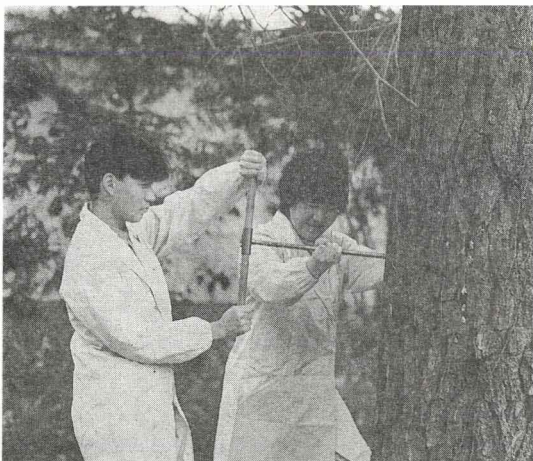
本教室に開設されている6つの各講座の内容を紹介すると次のようである。

#### 木材工学講座

木材の利用や加工の基礎となる木材の物性とその応用に関する分野を担当している。木材と他の物質との相互作用、収縮・膨潤、木材中の物質移動の物理的・物理化学的検討、並びに最近では住環境材料としての木材の色調、光沢、木理のパターンなどの視覚的特性や、熱的性質と接触温冷感の関係など、人間の感覚と関連した木材の特性の研究を行っている。また、木材の調湿機能の解析と評価法にも深い関心を持っている。さらに構造部材としての木材の弾性・強度などの力学特性の解析と木材強度の非破壊的予測の研究も重要課題となっている。

#### 木材構造学講座

木材は樹木の成長の過程に創り出される組織である。木材の材料としての特質はこの成長中に培われる。林産工学教室の唯一の生物学分野の講座として、樹木の観察や成長中の樹幹からの試料採取は研究の出発点となる。ここから、主に透過電子顕微鏡を用いて、樹木細胞の挙動と厚く強固な木材細胞壁の成立の過程、さらにその基本構造の解明を進めるのである。一方で、国産材、輸入材など生活に用いられる各種の木材について、細胞の形、組立などの特性を、画像解析装置と連動する光学顕微鏡や走査電子顕微鏡で追究している。



樹幹からの試料採取（木材構造学講座）

### 林産機械学講座

木材や木質材料の加工及び製造に使われる機械や工具に関する諸問題の解決と木材加工の自動制御システムの開発を研究対象としている。前者では工具の刃先摩耗と寿命、刃先の温度上昇機構、丸鋸の新しい腰入れ法の開発、帯鋸挽き曲がり現象の解明、チップソーの低騒音化を、後者では原木形状の自動計測、自動製材システムのための帯鋸走行位置制御、アコースティック・エミッションを利用した木材乾燥、腐朽材検出、ストレスグレーディングのシステムなどを研究している。

### 林産化学講座

分子レベル並びに細胞レベルにおける木材の高度利用に関連する学理とその応用についての教育と研究を行っている。前者ではセロオリゴ糖、配糖体、タンニンなどの立体規則的合成と反応性、それを基盤とする生理活性物質、高機能材料の開発、また後者ではパルプ構成要素の形態と造紙性、画像解析技術を応用したパルプシート・紙の構造解析、紙の構造と物性との関係、さらに紙の加工特性などが主たる研究テーマである。なお、木材以外のバイオマス、繊維生産植物も研究対象に加えている。

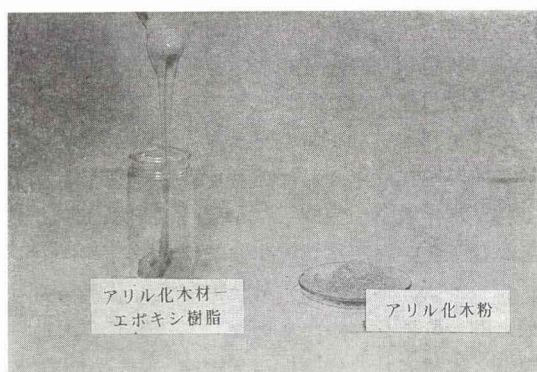
### 木材加工材料学講座

木材を材料としてとらえ、新しいすぐれた材料を開発するための基礎的課題を研究対象としている。すなわち、新しい木質材料としてのアセチル化木材など化学加工木質建材の開発研究、プラスチック性を備えるなど物性の異なる新しい材料への変換と機能化に関する研究、合成高分子と木材

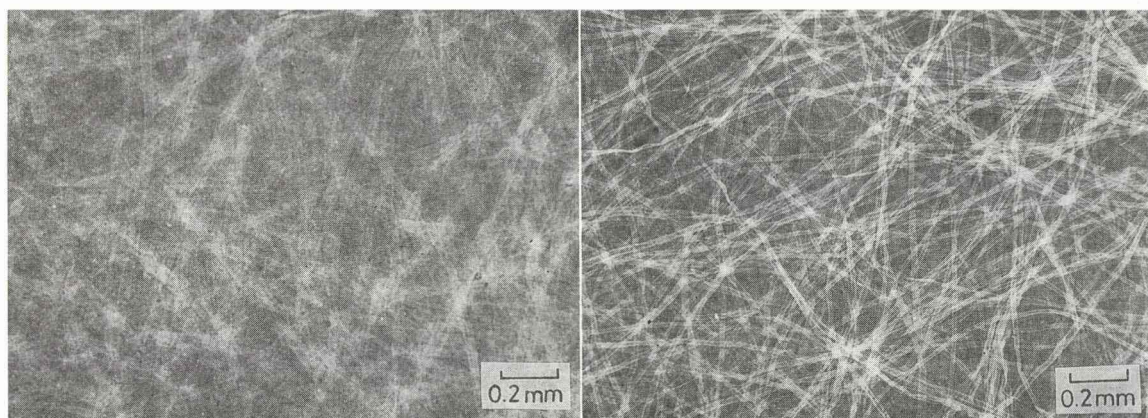
とをその親和性及び界面の接着性を考慮して組み合わせ、物性のすぐれた複合材料を開発するという研究、無処理木材の溶解物やリグニンからの接着剤などバイオマス接着剤及び樹脂化物の開発に関する研究、及びそれらの開発研究の基礎としてのトポ化学的研究、模型的研究などを行っている。

### 木材化学工学講座

木材を生物体高分子化合物の複合体としてとらえ、その主要構成成分であるセルロース、ヘミセルロースを含む多糖類、及びそれらの誘導体の構造—機能—相互作用の関係を分子レベルで解析すること、並びにこれらの成分から新しい機能性材料を開発するための基礎的課題を研究対象にしている。他に、リグニンの低分子化・可溶化、組織培養を用いた木材の改質、出土材の保存のための基礎、並びに森林生態系での化学物質の循環なども当講座の研究対象である。



アリル化木粉(右)を溶解して反応させて得たアリル化木材エポキシ樹脂(左) (木材加工材料学講座)



カラマツ早材(左)及び晩材(右)の軟X線ラジオグラム (林産化学講座)

(農学部)



## 昭和 63 年度 創立 記念 行事 音 楽 会 の 開 催

本学では、6月18日の創立記念日を祝し、下記の音楽会を開催いたします。本学教職員・学生の来聴を歓迎します。

### 記

日 時 昭和63年 6 月18日 (土) 午後 6 時開演  
場 所 京都府立勤労会館

京都市中京区烏丸丸太町下る  
(市バス・地下鉄烏丸丸太町駅下車)

演奏者 安田謙一郎弦楽四重奏団  
安田謙一郎 (チェロ)  
安田 明子 (第 1 ヴァイオリン)  
崔 文洙 (第 2 ヴァイオリン)  
白尾 偕子 (ヴィオラ)

### プログラム

#### モーツァルト

弦楽四重奏曲第22番変ロ長調 K. 58-9  
「プロシヤ王第 2 番」

#### ベートーヴェン

弦楽四重奏曲第 2 番ト長調 O P. 18-2

#### シューベルト

弦楽四重奏曲第13番イ短調 D. 804  
O P. 29 「ロザムンデ」

### 演奏者略歴

#### 安田謙一郎

1944年生れ。故斉藤秀雄氏に師事。1966年第34回毎日音楽コンクール第1位大賞を受賞。同年第3回チャイコフスキー・コンクール第3位入賞。その後ガスパー・カサド氏等著名な音楽家に師事する傍らジュネーブ・トリオを結成。1969年ルツェルン・フェスティバル合奏団ソリストとして海外演奏旅行に同行したのを始め欧米各地でのリサイタル、コンチェルト、レコーディング等多方面に活躍し、1974年には小沢征爾指揮サンフランシスコ交響楽団とも協演し絶賛を博した。1975年桐朋学園大学助教授に

就任、チェロの第1人者として後進の指導に力を注ぐ一方、1987年若手ホープと共に「安田謙一郎弦楽四重奏団」を結成。デビューコンサート以来、高い評価を得ている。

#### 安田 明子

幼少のころより、村山信吉、江藤俊哉両氏に師事。第24回学生コンクール小学部全国第1位。1977年桐朋学園大学音楽部入学、第48回音楽コンクール第2位入賞。1980年民音コンクール室内楽第1位、斉藤秀雄賞を受賞する。同年タングルウッドや霧島国際音楽祭にも参加して各種の賞を受ける。1981年第1回ヨアヒム国際コンクール第5位入賞。1983年から安田謙一郎氏と室内楽を共演、その後弦楽四重奏団の一員として活躍中。

#### 崔 文洙

1968年生れ。6歳よりヴァイオリンを始め1977年篠崎功子氏に師事。1980年からは久保田良作氏に師事。1983年桐朋学園大学音楽部入学。1986年から江藤俊哉氏に師事し、現在に至る。

#### 白尾 偕子

桐朋学園音楽科にて久保田良作、故斉藤秀雄、海野義雄の諸氏に、また西ドイツでコッホ氏に師事。1974年民音コンクール室内楽第1位。1979年より南西ドイツ放送交響楽団首席を勤め、一方ではソロ、室内楽でも活躍、1980年ミュンヘン国際コンクール第3位、1982年にはジュネーブ国際コンクールで銀メダル及び特別賞を受賞する。1986年から新日本フィル首席を勤める。

### 入場無料

備考：職員証又は学生証を持参して下さい。

定員は1300名先着順とします。

(学生部)

### 計 報

加古 三郎 (本学名誉教授)

5月23日逝去、71歳。昭和16年本学理学部卒業。49年

本学教養部教授就任、55年退官。専門は化学。

